

除草剤耐性ダイズと害虫抵抗性及び除草剤耐性トウモロコシの展示栽培
(栽培実験期間:平成20年度)

確認項目		確認結果
交雑防止措置について	○交雑防止措置について	本栽培実験のダイズでは、隔離距離による交雑防止措置を行っています。同種栽培作物までの距離が10m以上(約30m)ある事を確認しました。(研究所の外の同種栽培作物のほ場との距離は約550m)。トウモロコシでは、開花期前の除雄による防止措置を行っている事を確認しました。
	○選定場所について	ダイズの栽培実験において、実験区画の開花期の推定平均風速の算出値が毎秒3mを下回る事を確認しました。また、台風等の特段の強風の対応が必要なかった事を確認しました。トウモロコシの栽培実験では、隔離距離によらない交雑防止措置により実施していますので本措置は必要ありません。
	○開花前の低温により交雑の可能性が想定される場合の措置について	ダイズの栽培実験では、本措置を講じる必要がない事を確認しました。トウモロコシの栽培実験では、本措置は必要ありません。
	○モニタリング措置について	本栽培実験では必要ありません。
混入・拡散防止措置について	○実験の種子、種苗の分別管理、野鳥等の食害による拡散防止について	ダイズ、トウモロコシの栽培実験ともに、実験種子を密閉容器に入れ他の種子と分別した管理、密閉容器を使用した運搬による拡散防止を行った事を確認しました。また、平成20年6月11日～25日までの間、実験区画に防鳥網を設置し、さらにダイズにおいては完熟期前に除草剤処理により枯らして野鳥等の食害による拡散防止を行った事を確認しました。
	○栽培実験に用いた機械施設等の洗浄等について	ダイズ、トウモロコシの栽培実験の実験区画で作業に使用した機械等を、実験区画外搬出の際に払い落とし及び洗浄を行った事を確認しました。
	○第1種使用規程承認作物の収穫物の管理等について	ダイズの栽培実験では、収穫せず組換え体に除草剤散布後裁断して各ほ場の実験区画内に鋤込みして不活化処理を行った事を確認しました。また、隔離距離内の非組換え体のダイズについては、非組換え体は平成20年10月29日に収穫し、収量調査後11月20日に各ほ場の実験区画内に鋤込み不活化処理を行った事を確認しました。トウモロコシの栽培実験では、組換え体を調査用に一部を収穫し調査終了後に高圧滅菌により不活化処理を行った事を確認しました。残りの組換え体及び非組換え体は9月2日及び9月17日に各ほ場の実験区画内に鋤込みして不活化処理を行った事を確認しました。
	○栽培実験終了後の第1種使用規程承認作物等の処理等について	ダイズの栽培実験では、組換え体は、除草剤散布後平成20年9月17日に抜き取り裁断して各ほ場の実験区画内に鋤込みして不活化処理、非組換え体は11月5日に各ほ場の実験区画内に鋤込みし不活化処理を行った事を確認しました。トウモロコシの栽培実験では、遺伝子組換え体、非組換え体ともに9月2日及び9月17日に抜き取り裁断して各ほ場の実験区画内に鋤込みして不活化処理を行った事を確認しました。
○第1種使用規程承認作物を栽培した区画での後作の収穫物の取り扱いについて	展示ほ場では、平成20年11月12日後作としてライ小麦を播種。21年3月9日に鋤込み処理を行った事を確認しました。展示ほ場第二区画では、20年10月20日後作として小松菜を播種。21年3月9日に鋤込み処理を行った事を確認しました。	
栽培実験に係る情報提供について	○計画書の公表について	計画書が平成20年5月2日に公表された事を確認しました。
	○説明会の開催等について	説明会が平成20年5月17日に開催された事を確認しました。また、本栽培実験についての問い合わせの対応、希望者に対し本実験への見学の受け入れを行った事を確認しました。情報提供のフォローアップについても適切に対応していた事を確認しました。
	○栽培実験の経過に関する情報提供について	説明会の開催等、本実験の経過について28件の情報がホームページに掲載された事を確認しました。
	○栽培実験を終了した後の情報提供について	本栽培実験での栽培、処理の終了について、平成20年12月26日にホームページに掲載された事を確認しました。栽培実験結果については21年3月5日の21年度説明会にて発表された事を確認しました。
栽培実験に係る管理体制の整備について	栽培実験責任者、作業管理主任者、情報提供主任者を指名して管理体制を整備している事を確認しました。	

農業生物資源研究所 展示ほ場



平成20年10月7日撮影
図1